

677 學員武田鬼十郎氏逝く

〔『法学新報』第31卷11(359)号 大正10年11月7日〕

○學員武田鬼十郎氏逝く 學員武田鬼十郎氏は昨年以來兎角健康勝れずして療養に努力せられたるも藥石効なく去る十月二十日溘焉易箆せらる哀痛曷ぞ禁せん氏は明治六年五月十九日愛媛県松山市北京町に生れ長して中央大学に学ひ明治三十一年同校を卒業同年直ちに判検事試験に合格司法官試補として大津区裁判所詰を命せられ爾來三十三年大坂区裁判所検事三十四年伏見区裁判所検事同年京都地方裁判所検事三十八年福岡区裁判所検事四十年佐賀地方裁判所検事四十一年沼津区裁判所検事同年東京地方裁判所検事に歴任したるか四十三年九月志を立てて独逸に留学しライプツヒ大学に於て「ドクトルユリス」の学位を享く留学中我政府より刑事政策並に司法警察に關する取調を囑託せられ帰朝後大正二年七月東京控訴院検事に任し以て今日に

及ふ氏は資性温厚にして篤学の士なりき刑法及び刑事政策に付ては其造詣特に深く中央大学は氏の帰朝と同時に刑事政策の講義を囑託し之を担当すること数年に及び又公務の旁ら刑法総論の著述に従事せられ其稿漸く脱せんとして不幸病魔の侵す所と為り今や即ち不帰の客と為る洵に諸同人の哀悼措く能はざる所なり二十二日午後西大久保の自邸に於て告別式を挙行去一日夫人は遺骨を護りて郷里に趨き葬儀を営まるる筈なりと云ふ氏の生前愛読せられたる内外の書籍は一括して中央大学図書館に寄贈せられ又刑法総論の遺著は整理の上遠からず公刊せらるへしとのことなり思ふに今や秋風枯葉を打つの候筆を執て感慨特に深きものあり嗚呼哀哉